

「先端計測分析技術・機器開発事業」 府省への質問事項

1. 制度の枠組み等について

重点化

- ・対象は、先端的・独創的かつ基礎的なものに重点を置くのか。それとも、本事業の期間内に成果を実際に利用できるようなものに重点を置くのか。
- ・日本が得意としている分野に重点を置くのか、遅れがちだが重要な分野に重点を置くのか。

領域特定と領域非特定の割合

- ・計測分析機器は、科学技術の極めて広い分野の総合的な製品であり、各要素が先端的である必要があることから、領域非特定の枠をもっと広げることは考えていないのか。
- ・領域特定は、ライフ、ナノに片寄りすぎているのではないか。

予算配分

- ・予算の規模を何段階かに分ける必要はないのか？例えば、10億円規模のもの、1億円規模のもの等

採択数

- ・第1段階では採択数を増やし、それを毎年絞りこむということは、考えていないのか。

採択

- ・公募だけで採択するのではなく、文科省指定のテーマを作ることは考えていないのか。

他省との連携

- ・文科省が大学ベース（企業も参加可）で行うものと、他省で行うもの（予算を他省に移し替え）に分散させた方が、各省の関係する得意分野にフォーカスして運営できるのではないか。

研究遂行中のケア

- ・研究遂行中に創出した思いがけない成果を展開する仕組みは、何か考えているのか。

アフターケア

- ・実用化や事業化までには、マーケティング等様々なハードルがある

と考えられるが、アフターケアやサポートについて、どのような計画で進める予定なのか。

- ・政府調達などを行って、継続的に支援するようなことは、考えていないのか。

中小企業等対応

- ・中小企業やベンチャー企業等は、技術はあるが書類慣れしていないと考えられるが、これらの参画の仕組みや支援、コーディネータの創設について、どのように考えているのか。

その他

- ・機器開発に限らず、計測評価・性能向上に必須の要素部材やその表面処理手法の開発、試薬、標準物質、精密加工等の地味なサポート技術・技術者への手当ても可能とすべきではないか。
- ・分析の精度を向上させるためには、標準物質が絶対必要であるので、標準物質の開発を並行的に考えるべきではないか。

2. 選定等について

選定

- ・本事業には、リスクと情熱をもって、全く新しいものをつくろうという人が不可欠であると考えられるが、これらの有望なアイデアや技術、熱意のある人をどのように見つけていこうと考えているのか。
- ・選定に当たっては、ヒアリング、現地調査など十分なエネルギーをさくべきと考えられるが、どのように考えているのか。
- ・公募を待つだけでなく、目利きのある者がアイデアをすくいあげることが必要だと考えられるが、どのようなことを考えているのか。
- ・他省庁の類似のプロジェクトについて、重複等をどのようにして避けるのか。

尺度

- ・成果の評価の尺度について、論文数、特許数だけではかるべきではないと考えられるが、どのような尺度を考えているのか。(公募段階で明確に確定する必要がある)

評価者、PO、PD

- ・評価者、PO、PDの選定方法については、どのように考えているのか。

3. 研究チーム

チームの可否

- ・第1段階からチームに入って遂行する必要はなく、後の段階でチームを形成ということも考えられるが、応募はチームでなければならないのか。

企業連携

- ・チームは産官学連携に限られるのか。企業同士のチームの可能なのか。

外国企業

- ・研究はグローバル化しており、場合によっては、外国企業やベンチャーの成果を入れたほうが良い研究成果が得られる場合もあるので、研究チームに外国企業を入れることは可能か。

4. その他

応募書類

- ・応募書類、遂行時の提案書類について、どのように考えているのか。
(報告書類の作成等に多大な時間と労力を要しないようにする必要がある。)

開発環境

- ・開発環境の整備として、クリーンルームや実験室等も含まれるのか。

連携・役割分担

- ・他省庁との連携・役割分担は、どのように行おうと考えているのか。
- ・文部科学省内の他の施策(科学研究費補助金、最先端ナノ計測・加工技術実用化プロジェクト等)との連携・役割分担は、どのように行おうと考えているのか。